



CONTENTS

■平成27年度スポーツ振興支援事業・地域振興支援事業贈呈式が開催された
■先輩からの便り紹介

■奨学生の声紹介
■お知らせ
■奨学生の年度別・出身高等学校別進学先

■平成28年度奨学生募集

平成27年度スポーツ振興支援事業・地域振興支援事業贈呈式

高校部活動 3,434万円 地域振興支援事業にも



奨学会は、去る7月10日、多治見市東町のセラミックパークMINOで、平成27年度の贈呈式を行った。奨学会は平成11年設立後、積極的な活動を行っている高等学校の運動部を対象に、毎年部活動費の贈呈を実施してきた。地域振興支援事業の一環として、高等学校文科系部活動への支援も4年目となった。

贈呈式には来賓として岐阜県教育委員会松川禮子教育長をはじめ被支援校の部活動顧問、部長、監督など学校関係者ら併せて約70人が参加。小坂副理事長より各団体へ目録を手渡した。

最後に、被支援団体を代表して岐阜高等学校の丹羽章校長よりお礼の言葉があった。

伊藤青少年育成奨学会設立からの事業費の実績(平成12年度～)

単位：千円

年度	奨学金	スポーツ	国際交流	その他 (伊藤喜美賞を含む)	合計
12	4,800	13,100	3,000	—	20,900
13	9,600	10,700	3,000	500	23,800
14	21,600	6,100	3,000	200	30,900
15	28,800	10,000	3,000	200	42,000
16	25,200	10,000	13,000	1,300	49,500
17	26,280	11,500	3,000	4,000	44,780
18	31,080	10,400	3,000	3,000	47,480
19	35,040	11,300	—	—	46,340
20	37,380	13,310	1,500	2,000	54,190
21	37,080	8,700	—	7,000	52,780
22	39,600	12,800	—	1,000	53,400
小計	296,460	117,910	32,500	19,200	466,070

●平成23年4月1日から公益財団法人となりました

年度	奨学金支給事業	スポーツ振興支援事業	地域振興支援事業	合計
23	39,600	13,100	2,000	54,700
24	39,240	12,400	14,110	65,750
25	42,300	13,930	13,887	70,117
26	43,200	18,290	17,575	79,065
27(見込み)	46,800	25,160	9,180	81,140
合計(設立から)	507,600	200,790	108,452	816,842

●恵那市中央図書館～伊藤文庫～について

当財団は、平成19年度事業として上記事業のほか恵那市へ図書館(※)を寄贈しました。同時に23,000冊の書籍、運営費等1,500万円の寄贈を行いました。

※鉄筋コンクリート2階建て、延床面積2,652㎡(総事業費10億円)

平成27年度(公財)伊藤青少年育成奨学会 スポーツ振興支援事業・地域振興支援事業 被支援団体

①スポーツ振興支援事業(県内の高校・特別支援学校運動部およびスポーツイベントへの助成)

学校名	部名	金額(円)
岐山高等学校	体操部	1,000,000
羽島北高等学校	水泳部	900,000
県立岐阜商業高等学校	応援部	800,000
	バレーボール部	550,000
各務原高等学校	男子バレーボール部	950,000
	弓道部	400,000
各務原西高等学校	バドミントン部	710,000
岐阜各務野高等学校	フェンシング部	520,000
羽島高等学校	バドミントン部	200,000
本巣特別支援学校	サッカー・陸上部	640,000
岐阜豊学校	バレーボール部	460,000
鶯谷高等学校	男子バスケットボール部	100,000
済美高等学校	バレーボール部	640,000
大垣西高等学校	バドミントン部	210,000
大垣養老高等学校	弓道部	400,000
	フェンシング部	900,000
大垣商高等学校	硬式野球部	850,000
	陸上競技部	350,000
武義高等学校	なぎなた部	350,000
	硬式野球部	950,000
関商工高等学校	弓道部	400,000
	卓球部	400,000
加茂農林高等学校	剣道部	720,000
	女子バレーボール部	480,000
八百津高等学校	ラグビー部	680,000
可茂特別支援学校	硬式野球部	850,000
恵那南高等学校	硬式野球部	600,000
中津川工業高等学校	バスケットボール部	340,000
恵那特別支援学校	硬式野球部	250,000
益田清風高等学校	弓道部	400,000
飛騨高山高等学校	陸上競技部	700,000
高山工業高等学校	陸上競技部	970,000
飛騨神岡高等学校	スキー部	510,000
岐阜東高等学校	硬式野球部	560,000
	女子ソフトボール部	70,000
岐阜第一高等学校	硬式野球部	840,000
富田高等学校	硬式野球部	800,000
美濃加茂高等学校	卓球部	300,000
城南高等学校	男子バスケットボール部	880,000
岐阜大学ボート部	陸上競技部	770,000
恵那市陸上競技協会	卓球部	660,000
合計(33校・42運動部+1スポーツイベント)		25,160,000

②地域振興支援事業(県内の高校・特別支援学校文化系部および団体への助成)

学校名	部名	金額(円)
岐阜高等学校	自然科学部	1,000,000
加納高等学校	自然科学部	210,000
羽島北高等学校	吹奏楽部	900,000
各務原高等学校	吹奏楽部	1,000,000
岐阜農林高等学校	環境科学部	260,000
岐阜聖徳学園高等学校	吹奏楽部	1,000,000
鶯谷高等学校	写真部	160,000
大垣西高等学校	吹奏楽部	950,000
大垣養老高等学校	農業研究部・食品班	190,000
大垣工業高等学校	情報技術部	400,000
関商工高等学校	写真部	200,000
東濃実業高等学校	機械部	290,000
東濃フロンティア高等学校	写真部	140,000
中津川工業高等学校	電気工学研究部	150,000
岐阜東高等学校	電機工学研究部	200,000
多治見西高等学校	ギター・マンドリン部	420,000
龍澤瑞浪高等学校	筆曲部	350,000
東濃特別支援学校	太鼓部	470,000
スタジオぬくもりの森		670,000
		220,000
合計(18校・19文化系部+1地域振興イベント)		9,180,000

寺島 彰名古屋大学理学部
生命理学科
(恵那高校卒)**充実した4年間の経験を糧に、大学院進学へ。**

この度、3月をもちまして名古屋大学理学部生命理学科を卒業します。入学から4年間に渡り伊藤青少年育成奨学会様からご支援頂き、大変充実した大学4年間を送ることができました。

さらに4月からは名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻に進学します。これも伊藤青少年育成奨学会様のおかげと大変感謝しております。この場をお借りして心からお礼申し上げます。

この4年間の大学生活を振り返ると講義や実験などの学内活動に限らず、他の大学や研究機関の課外活動にも積極的に参加し、多くの人と交流ができたことは私の大きな宝になっています。

その中の一つに1年と3年生の時に参加した屋久島における野外調査活動があります。この調査は京都大学霊長類研究所主催の屋久島でのサルの生態調査で、公募で集まった大学生や社会人まで幅広い世代で山奥にテントを張り調査を行いました。それは今までの机上の勉学とは異なり、困難と新鮮な好奇心に満ちたものでした。その中で自分と同じ生命科学の研究を目指し、異なる価値観を持つ多くの他大学の学生と交流し、熱い意見交換をすることが出来ました。その中で新しい価値観を吸収することができたと思っています。この経験を通して生命科学分野において深く研究に携わりたいという目標が確かなものになりました。それ以来、学業では専攻である生命科学の分野では講義を受けるだけでなく研究室に足を運び、研究の最前線や現場について学ぶように心がけました。さらに定期的に開催される学外の公開実習や発表会に参加して同じ研究を志す全国の大学生と積極的に討論し、交流することに努めました。この時に出会った仲間とは、現在でも交流が続いています。

また研究分野に限らずサイエンス・コミュニケーションのイベントや博物館教育活動などにも参加しました。特に研究者と市民が科

学のあるべき姿について討論するサイエンス・コミュニケーションは司会者が講演者の難解な科学テーマを一般参加者にわかり易く伝えることが特に求められるイベントです。私は3年生、4年生の時にこの活動の司会を担当し、科学を伝えることの難しさを、身をもって学ぶ機会になりました。私自身が研究者となった時に、プレゼンテーションする際にいかにわかり易く伝えることが重要かを学ぶことができました。

4年生時の卒業研究のテーマは植物の受精に重要なタンパク質の研究について行いました。植物の生殖によって生み出される果実や種子は、私たちが普段主食として食べる米やパンの原料になります。このように私たちの生活において重要な植物の生殖過程ですが、その詳細な仕組みは明らかになっていません。私は、近年発見された植物の雄の生殖細胞を雌の生殖細胞に誘引するタンパク質について雌しべの中でどのように働いているのか、そしてタンパク質としてどのような機能を持つのかについて研究し、解析を行いました。何度も失敗を繰り返し、苦労しましたが、タンパク質の機能解析に重要なタンパク質分布の時間変化を明らかにすることができました。この研究を進める中で学外の研究会に発表する機会も得ることができました。そして名古屋大学臨海実験所で開催された受精・発生の会での口頭発表と阿蘇市で開催された新学術領域細胞壁機能若手の会でのポスター発表で最優秀賞を受賞することができました。これまで幅広い活動を続けてきた経験が、このような機会に生かされたと考えております。

最後になりますが、この4年間の経験を糧に大学院においてもさらに精進いたします。このように充実した大学生活を送ることができたのは伊藤青少年育成奨学会様の支援のおかげと感謝申し上げます。ありがとうございました。

**いよいよ研修医生活がスタート！
謙虚に学ぶ姿勢を大切にしたい。****草場 勇作**山形大学医学部
医学科
(斐太高校卒)

拝啓 早春の候、貴奨学会におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび、医師国家試験を終え、3月をもちまして山形大学医学部

を卒業することとなりました。6年間という長い期間にわたってのご支援のおかげで、たいへん充実した学生生活を送ることができました。本当にありがとうございました。

6年前、生まれ育った飛騨地方をとにかく出たいという思いで、東北の地を踏みました。それまでは「岐阜県」あるいは「飛騨地方」について他の地域と比較することはほとんどありませんでしたが、東北で過ごす中で、出身地に対して客観的な見方ができるようになりました。とりわけ、ある世代以上の方とお話する際、決まって出身地を褒められたことは、郷土に対して誇りを持つことにもつながったと思います。

インドを3週間一人で旅行するなど長期休暇を利用して国外に出ることも何度かありましたが、そこでは日本という国を客観的に見る経験をしました。私が医師を志した理由のひとつに、国際協力を

したいという思いがあります。国際協力というと出身地域への貢献とは矛盾するのではないかとと思われるかもしれませんが、日本の中の一地域も、医療が十分に供給されない国の一地域も、人間が生活を営む場所としては同じであり、一方が他方に学ぶこともあるのではないかと思います。将来、何らかの形で国際協力に携わり、その経験を自分が生まれ育った地域に還元できる医師になることが私の一つの目標です。

また、私の6年間に欠かせないもののひとつに、陸上競技があります。大学では、競技会の運営など、それまでと異なる角度から陸上競技に関わる経験ができましたし、社会人の方が中心となる市の駅伝チームに加入したことで、競技に対する価値観の違いを学びました。昨年の夏に東日本医科学学生体育大会の5000mで初めて表彰台に立つことができたときは、それまでの取り組みが一つの形になったようでとても嬉しかったことを記憶しています。

4月からは岐阜県に戻り、研修医としての生活がスタートします。地域の方々健康に貢献できるよう、そして一社会人としても認められるよう、謙虚に学び続けていきたいと思っています。末筆ながら、貴奨学会のますますのご発展をお祈り申し上げます。 敬具

村山 万季

岐阜大学
医学部・医学科4年
(岐阜高卒)

授業と部活動の両立、
臨床実習に向けての試験勉強、
さらに英語学習に取り組む日々。

臨床医学を現在学んでいるのですが、3年生の4月から学んできた臨床医学も、もうすでに半分以上学び終え、残りあと少しとなりました。臨床医学は4年生の7月に学び終えるカリキュラムとなっており、8月の末には、CBT試験があります。CBT試験とは、臨床実習開始前までに修得しておくべき必要不可欠な医学的知識を総合的に理解しているかを評価する試験です。そのため、今まで大学1年生から学んできた、基礎医学から臨床医学まで、すべての範囲から出題され、いわば国家試験の少し簡単バージョンです。かなり大きな知識があるので、もうすでに勉強をはじめていきます。まだまだ問題が思うように解けず、悪戦苦闘しています。何度も何度も繰り返し復習しなければ、記憶に残していけないので、繰り返し分厚

い問題集に取り組もうと計画しています。また大学入試の頃のような勉強の追い込みがはじまってきているので、つらいですが、将来のため、自分のために、少しでも高得点が採れるように頑張っていきたいと思います。

また、将来、英語は必要不可欠であるため、最近、再び英語の勉強をはじめました。英単語を毎日少しずつ勉強しています。CBT試験の勉強、通常の大学での試験の勉強と並行して勉強していくのは大変ですが、できるだけ頑張っていきたいと思っています。

CBT試験を終え、OSCE試験という、実践形式の試験を終えると、いよいよ実習が始まります。不安もありますが、とても楽しみです。臨床実習で、色々な科をまわっているうちに、将来自分が専門としたい科が見つかるといいなと思います。

奨学会からのコメント 一人前の医師になるのには、多くの関門があることに同情するやら、人間の命を預かるのだから当然という思いやら。が、専門とする科が見つかるといいな、ではなく見つけるという主体性を。

岩永 紘和

京都府立大学
文学部・歴史学科3回生
(多治見北高卒)

滋賀の小谷城、
和歌山の古式捕鯨関連の史跡…
学び多き現地調査。

現地調査を通じて後期では近畿圏の具体的事例から学ぶことが多くありました。

滋賀県長浜市を訪れた際、小谷城を見学しました。小谷城は戦国期に江北を治めた浅井氏三代の居城です。深く開いた谷に連なる居館群とそれを守るため両側の尾根に砦群が配置されており、標高495mの山全体を巧みに利用した巨大な軍事要塞という印象を受けました。江北は戦国期、琵琶湖の水に恵まれ農業や鉄砲鍛冶などの生業や流通の盛んな地域として有名です。景観や資料などを通じて今も浅井氏の繁栄を支えた豊かな江北像を見つけることができます。一方、城跡には様々な箇所朝倉氏による築城技術の支援が見られ、技術面でも両氏の密接な関係があったことを知りました。これらを踏まえた上で信長の統一過程における浅井氏の影響を考慮する必要があります。

和歌山県太地町を訪れた際は狼煙場跡や山見台など古式捕鯨関連の史跡を中心に見学しました。古式捕鯨は当地の領主であった和田氏によって江戸前期に創始されました。現在からすると「古式」かも知れませんが、当時はそれ以前と比べて、より組織的かつ積極的手法であり、捕鯨史上の画期を成すものでした。その一方で捕鯨は命懸けの闘いであり、同時に漁師達の高度な専門技術が要求されるものです。また、「いのち」をいただく鯨に対する慰霊と感謝の念が込められた供養碑も多くあり、人の鯨への関わりには様々な思いが交錯する深い関係にあるのだと学びました。

その後足を延ばして東明寺の裏山にある太地城跡も見学しました。付近では実際に和田氏が指揮をとって敵の侵攻を撃退しており、戦国領主として和田氏の姿も見てきました。戦国期から江戸期にかけて領主としてたくましく生き抜くための戦略をとり続けてきたという点で、新たな視点から領主像を描くことができるように思いました。今後は祭礼や漁業史も含めて包括的に捕鯨の位置づけについて考え、関心を持ち続けていきたいです。

奨学会からのコメント 現地調査がすべての基本。梅棹忠夫は「それを自分で見たんか？」と問う。捕鯨に関しても、日本の歴史・文化として世界に発言、国連の生物多様性のみならず文化の多様性決議を勝ち取ろう。

石原 慧

名古屋市立大学
経済学部2年
(関高卒)

まずは簿記2級に合格。
限りある時間を大切に、
今後の資格勉強の方向性を見極めたい。

学業状況において特筆すべきは簿記試験に合格できたことです。昨年の6月に3級を、11月に2級を取得することができました。これは大学の授業を受けて勉強したものではなく、専門学校で先生に大学まで足を運んでいただき、放課後に「簿記講座」として勉強させていただいたものなのでより一層価値があると思っています。もともと中学生の時に簿記という学問を知り、独学で挑戦しようと思ったのですが高校進学とともに断念し、高校が普通科であったために授業で取り扱われることもありませんでした。大学生になり学習の機会を得ることができたので、興味や関心だけではなく、喜びもあわせて勉強することができました。資格取得に向け精神的な面や金銭的な面など様々な支援をしてくれた両親にも改めて感謝の気持ちでいっぱいです。就職活動の際に履歴書にかけるといわれる簿記2級を取得できたことで、この先何の資格勉強をしていくのかという岐路に

私は立っています。このまま簿記の勉強を続け税理士や公認会計士を目指すのか、別の興味がある資格の勉強をするのか、という選択です。時間は残されているようで、あまり残されていませんが、自分の今後が大きく左右される選択ですので焦ることなく考えたいと思います。さて名古屋市立大学経済学部生として一年間過ごして感じたことがあります。それは単位をいただくために求められることがレポートの提出ではなく、期末試験つまりテストで結果を残すことばかりであったということです。自分の考えを文章にする機会に乏しかったので寂しい気持ちは残っています。貴奨学会への報告書は数少ない文章を書く機会でした。貴重な機会を提供して下さいありがとうございます。大学の先輩方の話によると、上級生になるほど文章を書く機会が増えるそうなので、これからも自分の文章を書く力を向上させるように努力をしていきたいです。

奨学会からのコメント 言葉が行為を決定する。勉強はさせていたでなく「勉強する」もの。単位をいただくためではなく、「単位は取得する」もの。鳩山由紀夫のせいで若い世代の言葉が混乱している。それは敬語ではなく、単なる他力本願の表現で、社会では通用しない。

石田 梓

鈴鹿医療科学大学
保健衛生学部・放射線
技術科学科2年
(麗澤瑞浪高卒)

新しいことを覚えるたびに、
過去に学んだこととつながってゆく。
勉強するって楽しい！

1年生の後期から、専門基礎分野が始まりました。これらの講義のほとんどが国家試験の試験範囲であるので、前期以上に集中して取り組みました。多くの講義の中で、私はX線画像技術学1という講義を一番意欲的に取り組みました。この講義はすべての画像診断の基礎であるX線一般撮影における臨床基礎とX線撮影法の基礎を学ぶものです。私は各種撮影法を覚える時、自ら患者に維持してもらって体勢をとってみました。そして、患者にかかる負担について考えさせられました。

例えば、副鼻腔後前方向撮影法では患者は顎をつき出し、前頭部が不安定になる体勢にならなければいけません。もし患者が高齢であれば、この

体勢を維持するのは大変でしょう。また、患者はわずかに被ばくも受けるという負担もあります。これらから、撮影は患者の協力なしでは可能にならないと思い、私は患者に対して労わりの気持ちを持つべきだと感じました。

また、X線撮影法覚えるにあたり、工学や解剖学などの基礎分野がとても関連しているので、新しいことを1つ覚えるたびに今までに学習した事柄との新たなつながりが見つかり、勉強することが本当に楽しいと感じています。8月末には第1種放射線取扱主任者試験を受けます。その試験に合格することを目標とし、努力を欠かさず勉強に励んでいきます。

奨学会からのコメント 患者に対していたわりの気持ちを持つのはいい。しかし、より患者に負担を強いることのない機械・方法の創造という医療現場一丸となって精進するような、大きな夢を持つてほしい。

お知らせ

私財を投じ当財団を設立し理事長であった伊藤喜美は、病気療養中のところ、平成27年7月7日逝去いたしました。8月23日には「偲ぶ会」が恵那市で、また9月7日には株式会社バロー主催の「お別れの会」が名古屋市で営まれ、多くの方に参列いただきました。特に、「お別れの会」では奨学生代表として西尾文吾さん（名古屋大学工学部3年生）に代表献花を行っていただきました。そのほか、多くの奨学生等からお悔やみをいただきお礼申し上げます。今後とも当財団は、伊藤友子理事長（伊藤喜美の妻）のもと伊藤喜美の意思を受け継ぎ運営してまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

奨学生の年度別、出身高等学校別進学先（単位：人）

出身高等学校	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	合計
岐阜	京都大 東京工業大 岐阜大	中央大 東京工業大 名古屋市立大 高知大	北海道大 名古屋市立大 大阪大 自治医科大 名古屋大	筑波大 東京大 岐阜大 慶応義塾大	16
岐阜北			南山大 筑波大		2
長良	愛知教育大				1
岐山		神戸大			1
加納	名古屋大	名古屋大	岐阜大 愛知大	名古屋大	4
県立岐阜商業		中央大（2人）	愛知大 三重大 中央大（2人）	東洋大	7
各務原西		岐阜大		愛知教育大	2
岐阜各務野				天理大	1
岐阜農林	日本福祉大 筑波大			岐阜大（2人）	4
揖斐				岐阜女子大	1
大垣北	名古屋大 京都大	静岡大 京都大（2人） 青山学院大	岐阜大 大阪大	滋賀大	9
大垣南			岐阜大		1
大垣東		同志社大			1
大垣西			三重大		1
大垣商業	名古屋大		東京理科大	富山大	3
武義		静岡大			1
関	京都教育大		名古屋市立大	京都大	3
加茂		千葉大		早稲田大	2
可児	名古屋大 岐阜大 大阪大	豊田工業大 名古屋工業大			5
多治見				愛知県立芸術大	1
多治見北	愛知県立大 早稲田大 信州大	名古屋市立大 京都大 中央大 京都府立大	早稲田大	京都府立大 名古屋大 北海道大	11
恵那	大阪大 名古屋大（2人）	高崎経済大 岐阜大（2人） 名古屋大 筑波大	富山大 名古屋大 南山大	岐阜薬科大 奈良女子大 京都教育大	14
恵那農業		慶応義塾大	中部大	名城大	3
中津	三重大			信州大	2
中津商業		中京大			1
斐太		日本福祉大 新潟大		富山大 岐阜大	4
飛騨高山			東京農業大学		1
関商工		愛知大	富山大		2
東濃フロンティア				四日市大	1
岐阜東				南山大	1
岐阜聖徳学園			早稲田大	岐阜聖徳学園大	2
岐阜女子	奈良女子大				1
多治見西			愛知県立大	立命館大 神奈川大 京都大	3
麗澤瑞浪			鈴鹿医療科学大学		2
中京		京都大	日本大 富山大		3
高山西				岐阜大	1
一宮興道		名古屋大			1
菊里	愛知県立芸術大		東京芸術大		2
藤枝明誠	同志社大				1
春日丘			慶応義塾大		1
聖雲			横浜市立大		1
愛工大名電			同志社大		1
東海				岐阜大 自治医科大	2
合計	25	33	34	35	127

平成28年度 奨学生募集中！

奨学金を通じて、本気で学びたい人を応援します

選考の流れ

平成27年12月末日 高等学校を通じて、または直接郵便にて奨学会へ申請書を提出

平成28年1月下旬 一次選考（書類審査）

平成28年2月上旬 結果を通知

平成28年3月23日頃 二次選考（面接）

平成28年4月初旬 選考された方への通知

支給金額・支給方法

支給月額 30,000円（自宅通学・自宅外通学とも）
※返還の必要はありません

支給期間 最長4年（平成27年4月～）但し医学部生は6年

振込日 4、5、6、7、8、9月分 6月中旬
10、11、12、1、2、3月分 12月中旬

募集人員

大学生 30名程度（短期大学生を除く）

応募資格

- 新1年生であること
（平成28年4月 四年制大学へ入学される方）
 - 岐阜県出身または県内在住の方
 - 人物、学力ともに優れていること
 - 経済的理由により修学が困難であること
- 提出書類、選考基準等につきましては当財団ホームページ、事務局又は高等学校へお尋ね下さい。

公益財団法人

伊藤青少年育成奨学会事務局

〒507-0062 岐阜県多治見市大針町 661-1

TEL 0572-20-0800（直）

FAX 0572-29-1168

E-mail webmaster@ito-zaidan.or.jp

URL http://www.ito-zaidan.or.jp/

発行 公益財団法人
伊藤青少年育成奨学会
印刷 株式会社コームラ